

光浄院庭園

はじめに

光浄院は、大津市別所園城寺（三井寺）山内にあり、古くから勧学院、法泉院などとともに学頭室と呼ばれた^{せきしむ}碩室です。

そのはじめは、室町時代、近江国勢多城主山岡^{みまきのかみ}美作守景広がその子景長に勢多城を譲り、石山に古城を営み入道して「光浄院」と号し、その後、園城寺山内の十円坊の廃跡に一字を建立し寄進したことから、その寺名を「光浄院」と称するようになったと言われています。

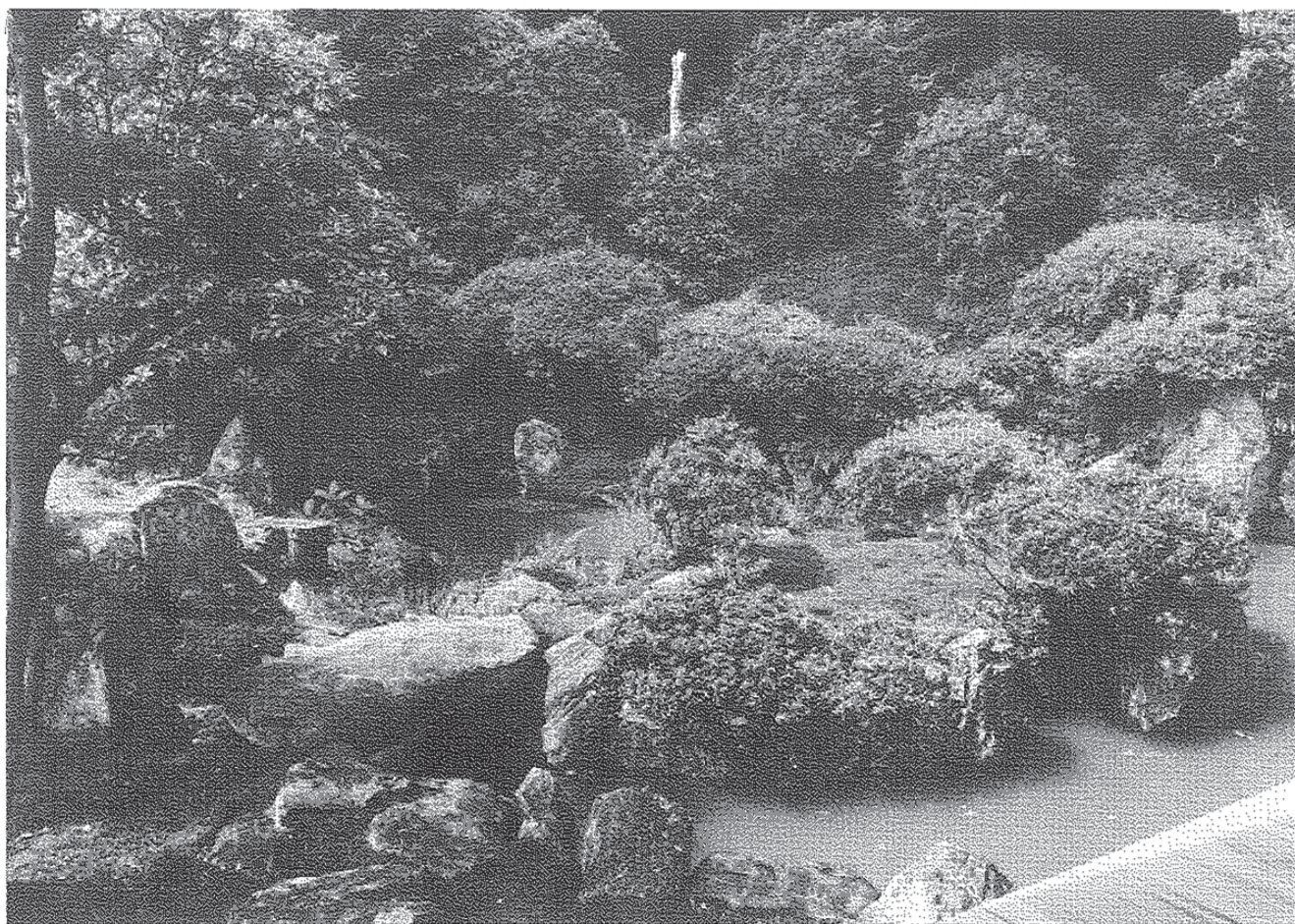
国宝の客殿

中門をくぐると、木立を背景にこけら葺の寝殿造り形式を汲む武家書院造りの建物が、

静かなたたずまいの中に、豪華で格調の高い偉容を誇っています。これが有名な国宝・客殿です。

客殿建築は、桁行7間、梁間6間の単層、屋根入母屋造りで軒唐破風^{からばふ}をつけ、切妻造りの中門廊があり、^{しじみ}蔀戸、板扉、舞良戸^{まいらど}などが用いられています。客間は5間にわかれ、最奥の間に床をつけ、その脇に2畳の上段書院を広縁に張り出してつけ、寝殿造りと書院造りとが巧みに組み合わされています。

この建物は、今に残る桃山時代の日本建築の粋を集めた代表作として内外に知られ、多くの建築家が見学にこの光浄院を訪れていま



庭口 全景



光浄院・客殿

—滋賀県教育委員会提供—

す。

客殿は、慶長6年（1601）、山岡道阿弥景友が建立したとされています。つまりさきの園城寺が、秀吉によって關所破却されていたのを、当時秀吉にとくに信任の篤かった道阿弥の努力によって、慶長3年再興が許され、建立されたのが現在の客殿です。

名勝指定の庭園

庭園は、書院の南側に作られた観賞式池泉で、国の名勝指定を受けた園城寺第一の名園と言われ、享保20年（1735）に刊行された「築山庭造伝前編」にも図録され、すでにその頃から名園として紹介されています。

作庭年代は、現存の客殿が建築された慶長6年以降とされていますが、その原形はより古くさかのぼることができると言われています。それは園城寺には、古くから作庭技術に関係の深い僧侶が所属していたことが、森蘊氏によって明らかにされ、一方庭には、元の

庭のものと思われる遺構と、改修されたいい個所が見受けられるところから、室町時代、当初の建物が建立されたとき、引き続いて作庭された池泉が、慶長の再興の際、客殿の新営にあたって改修されたとも推定されますが、記録には詳かではありません。

現在の庭園は、東西約20m、南北約12m、面積およそ429㎡で、山畔を取り入れた池泉庭です。

山麓に沿って掘られた池は、書院の広縁の下部にまで喰い込み、東西に広がりを見せています。また池の東は山すそに沿って深く入江が作られていますが、西の方は山畔が迫ってきて池中も次第に狭まっています。

池の中央正面から、やや右寄りの対岸には立石2個を組んだ枯滝があり、やや左寄りには中島を築いて、中門廊の前から大きな自然石の橋石をかけています。また入江の奥まった岸边には石を立て、書院の広縁にそった池

中には直列的に3個の夜泊石を配し、池辺にはびっしり石を組んで護岸を施しています。

さらに池の周辺や山腹の所々に景石を据え、庭の景を引き締め、落ち着きをあたえています。

庭木の高木類は、この庭を囲むようにして山腹にはスギ、ヒノキ、マツなどが多く、向こう岸に植えられた大きな3本のカエデと1本のサクラは池の周辺を覆い、とくにその中のカエデの1本は池の上に覆いかぶさって、その姿を水面に落としています。

その他、中高木としては、上段書院の西側にツバキ、中門廊前にはネズミモチ、モチなど、その東方にはサクラ、池の西南の山腹にはカシ、シイ、ツバキなどを配植し、池の東南の奥まったところにケヤキの大木が望まれます。

池の周辺や中島は、そのほとんどがサツキとツツジなどの刈込低木で、石組や石垣、あるいはその周辺に配植されています。

これらの樹々によって、庭園は外界を画し、静寂を保って、池泉の石組と巧みに調和し、

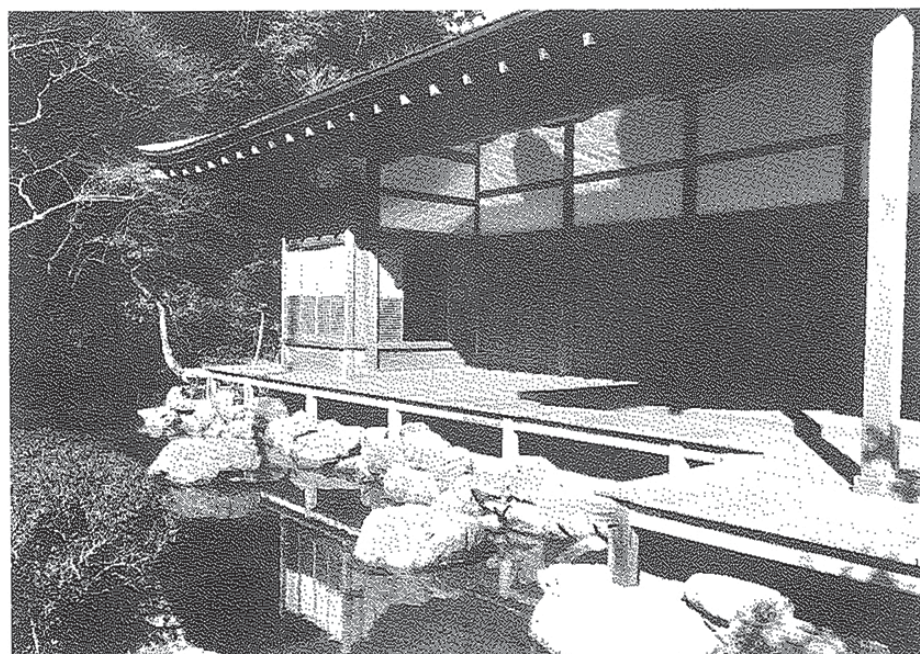


枯 滝

そこに見事な造形を空間に創造しています。

むすび

桃山風のこの豪華な客殿が、中門廊の束柱と広縁南の束柱を、池辺の石を基礎にして池に乗り出すように建てられ、それが幽玄にしてしかも明るい世界をかもし出している名園とよく調和し、ここに完全に融合して一体化しているのは、まことに巧みの業と言わなければなりません。寺伝によると、道阿弥の作庭とされていますが、実際の作庭者は詳かではありません。



広縁下護岸石組み

書院の広縁に座ってこの庭を眺めると、樹々の緑の梢から池面に射す光は、明るくその影を客間へ写し、静かな庭の雰囲気は、見る者の心に、次第にやすらぎと落ち着きを与えてくれます。

これが、ほんとうの日本庭園の心というべきものではないでしょうか。

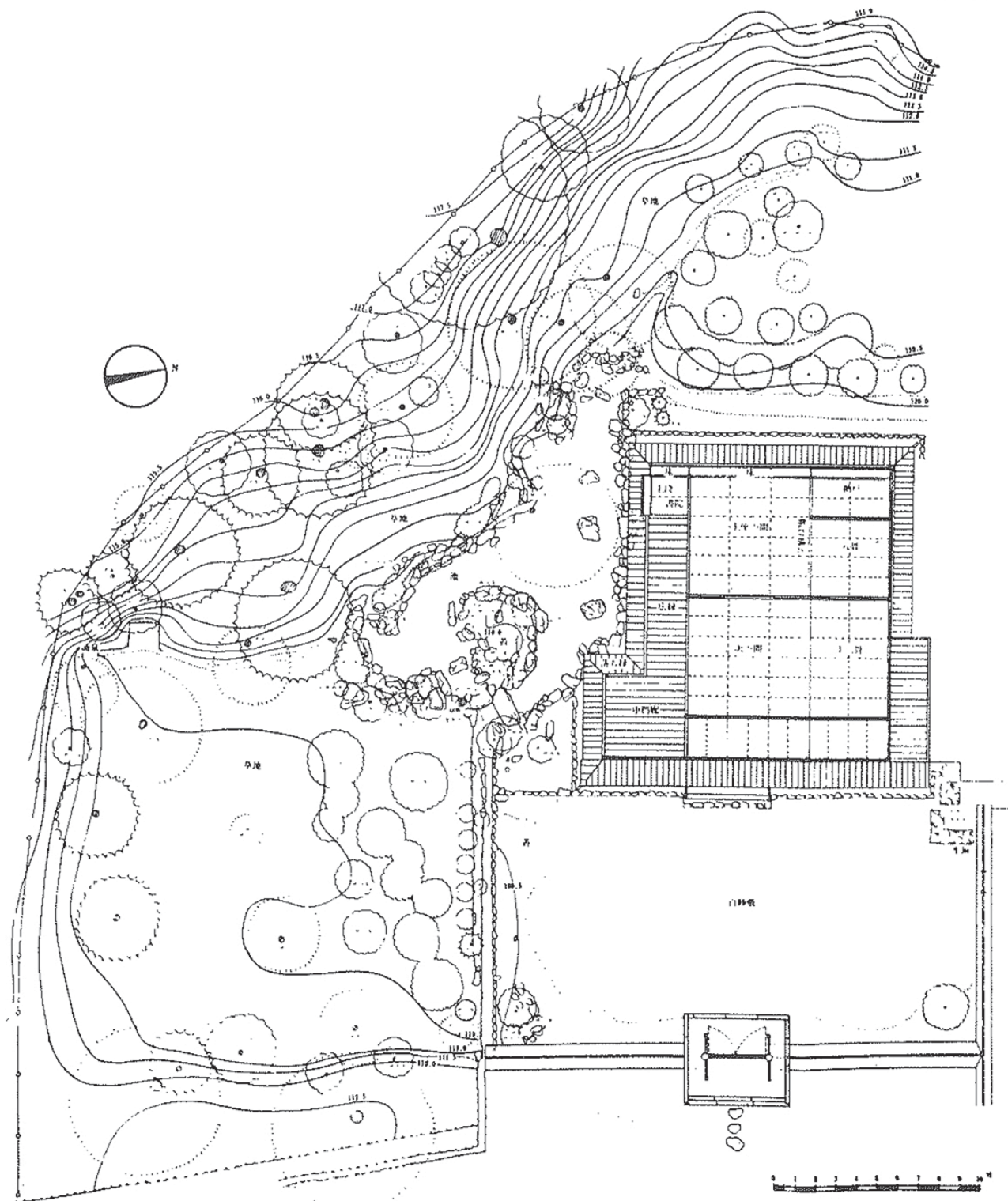
またこの庭園は、上段書院の小窓からの眺めもよく、昔池向こうの台地の上に、茶亭があったと推定されているあたりから、池泉を前

景にした客殿の眺めも素晴らしく、さらに四季折々の景色は、庭にもそれぞれ季節の変化を与え、見る者の目を楽しませてくれます。

光浄院庭園は、数ある近江の名園の中で、とくに推奨できる庭園の一つであり、多くの関係者からも、今後この庭園の適切な管理が強く望まれています。（村松恭三氏提供）

引用文献

- | | |
|------------------|---------------|
| 近江の庭園 | 中野楚溪著 |
| 園城寺庭園概説(園城寺) | 森 蘊著 |
| 光浄院と山岡道阿弥(園城寺8号) | 柳田暹暎著 |
| カラー近江路の魅力 | 中村直勝著 |
| 日本の名園(奈良・滋賀・全国編) | 重森三玲著 |
| 日本庭園史(桃山編) | 重森三玲著
重森完途 |



秘宝・園城寺 森蘊氏 実測図より